

# 山田養蜂場の植樹活動の歩み

## The history of tree planting activities by Yamada Bee Farm in China, Nepal and Japan

Susumu Hikami, Executive Instructor of Yamada Honey Bee Farm

当社は、養蜂業という、豊かな自然環境が無ければ成り立たない農業を原点としている企業です。だからこそ当社には、自然環境を守る使命があり、宮脇昭先生が提唱するその土地本来の自然植生の復活、「ふるさとの森」づくりこそが、現在危機に瀕しているこの地球を救うために、最も必要なことだと考えています。

当社の植樹活動の始まりは1998年にさかのぼります。当社代表の山田英生が、「アジア養蜂会議」でネパールを訪れた際、日本人を含むエベレスト登山者のためにネパール全土の森林が大量に伐採され、それに伴う大規模な土砂崩れが発生している実態を知りました。このことから、翌1999年にネパールで最初の植樹活動を開始し、以降継続して植樹活動を行っています。

また、砂漠化が進む中国北部でも、横浜国立大学と共同で植生調査を行ったのち、2004年より本格的な植樹活動を続けています。

私たちは、これまでに国内外合わせて231万本を超える木を植えてきました。「自然との調和」を理念に掲げ、未来の子供たちに豊かな自然環境を受け渡すことができるよう、今後も本物の森づくりに貢献してまいります。



### 宮脇昭先生と山田代表の出会い

2001年に初めて対談を実施。山田代表は宮脇先生の考えに強く共感し、新社屋周辺に宮脇方式の植樹を行いました。これを皮切りに、国内だけでなく、海外でも植樹活動を展開しています。また、宮脇先生の思想を多くの人に知ってもらえるよう、全国の新聞に宮脇先生との対談広告を載せてきました。

「人の社会も木の社会も競争・共生・我慢の法則で成り立つ」などの宮脇先生の言葉が、当社の若手育成の研修などで活かされています。



### 【中国での植樹】 1,692,828本 (2004年～)

中国は、五千年以上前の古代文明の時代には、国土の60%以上が自然林に覆われていたといわれています。しかし、長年の開発に伴う伐採で、そのほとんどが失われました。

日本は様々なことを中国から学んできた歴史があり、当社も原料供給などで中国に支えられています。友好を深め、助け合うことが出来ればとの思いで、当プロジェクトを行っています。



### 内モンゴル自治区の事例

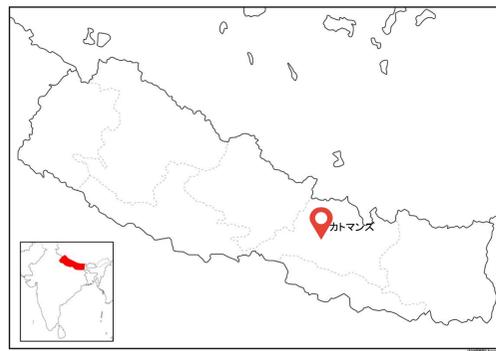


内モンゴルの砂漠地は、乾燥や砂に埋もれる影響で、森林再生が難しい場所といわれています。そのような場所でも苗木が活着し、森づくりに成功しました。2009年には植樹地に隣接する育苗場が設営されました。現地の人たちが自分たちで森を作り続ける必要性を感じ、自走しています。

### 【ネパールでの植樹】 482,052本 (1999年～)

2000年から、カトマンズ地域にある村々や、世界遺産であるチャングナラヤン寺院などで植樹活動を続けてきました。植樹祭には、在ネパール日本大使をはじめ、ネパールと日本の両政府代表者も参加いただいています。

また、植樹だけでなく、衣類や文房具、パソコンなどの寄贈や、2015年に発生したネパール地震における災害復興支援も行ってきました。



### チャングナラヤン寺院に植樹した苗木の成長の様子



2014年の植樹地は、今では10m以上に成長し、森になっている。

### 【日本国内での植樹】 144,673本 (2001年～)

2001年に当社社屋周辺に宮脇式植樹を実施して以降、当社のある鏡野町内で定期的に植樹活動を行っています。



当社社屋の航空写真



2010年、宮脇先生と一緒に植樹する山田代表



現在の様子(23年経過)



2012年、当社の第1工場にて



現在の様子(22年経過)



2020年、当社の第1工場周辺にて

2022年、植樹の様子

### 【植樹本数の推移】

年	合計	中国				ネパール	国内
		内モンゴル自治区	安徽省	広東省	雲南省		
1999	700	-	-	-	-	700	-
2000	15,000	-	-	-	-	15,000	-
2001	65,547	-	-	-	-	35,000	30,547
2002	30,000	-	-	-	-	30,000	-
2003	50,000	-	-	-	-	50,000	-
2004	1,157,928	1,050,028	-	-	-	44,000	63,900
2005	35,150	25,150	-	-	-	10,000	-
2006	73,534	55,150	-	-	-	13,654	4,730
2007	67,234	50,000	-	-	-	17,234	-
2008	71,000	50,000	-	-	-	21,000	-
2009	100,660	50,000	-	-	-	50,660	-
2010	116,642	50,000	-	-	-	50,660	15,982
2011	90,530	-	40,000	-	-	50,530	-
2012	110,852	-	40,000	-	-	60,852	10,000
2013	40,501	-	40,000	-	-	501	-
2014	32,500	30,000	-	-	-	2,500	-
2015	3,000	-	-	1,000	-	2,000	-
2016	14,000	-	-	12,000	-	2,000	-
2017	27,000	-	-	25,000	-	2,000	-
2018	32,261	-	-	29,500	-	2,761	-
2019	26,500	-	-	25,000	-	1,500	-
2020	20,984	-	-	-	20,000	-	984
2021	21,500	-	-	-	20,000	1,500	-
2022	23,620	-	-	-	20,000	2,500	1,120
2023	39,410	-	-	-	20,000	8,000	11,410
2024	53,500	-	-	-	40,000	7,500	6,000
累計	2,319,553	1,360,328	120,000	92,500	120,000	482,052	144,673

### 【株式会社 山田養蜂場について】

岡山県北部、中国山地の中央部にある苫田郡鏡野町に本社を置いています。ローヤルゼリーを中心に、プロポリスや各種はちみつ製品、ミツバチ産品を配合した化粧品など200種類を超える商品を製造・販売しています。

ミツバチから学んだ自然環境と人間社会との調和を理念とし、教育支援や自然保護などの社会貢献活動にも取り組んでいます。

所在地	岡山県苫田郡鏡野町市場194
事業内容	ミツバチ製品の開発・製造・通信販売
代表取締役	山田英生

### 【ケニアの植樹プロジェクト支援】 (2005年～)



2005年、ワンガリ・マータイ副環境相と協議が行われた。

ケニアは、長年にわたる過放牧や森林伐採などで砂漠化が進み、国土の約80%が砂漠・半砂漠となっています。生態系の回復のため、2004年ノーベル平和賞受賞者のマータイ氏が手掛ける植樹プロジェクトを支援しました。